

鈴木工業株式会社

# かわら版

「仕事」「人生」そして「環境」



発行元：鈴木工業株式会社  
2021年10月 第43号

「こんにちはは鈴木工業です」

ようやくコロナが落ち着きを見せ始め、なんとなく気持ちも軽くなったかなと思ったり、もう10月。今年も終わりが見えてきました。いつもこの季節を向かえるとは何かしなげやと焦ります。まだまだ気の抜けない状況ではありますが、感染予防を万全に行っている者スポーツ観戦に行ってもいいですね。鈴木工業の恒例行事、「みんなの森」は今年も行わないことになりました。みんなで森の空気を吸って、いい吸える日が早く来ることを祈っています。

かわら版  
編集部一同

## 鈴木工業はこんな会社です

前号に引き続きまして、創立五十五周年 55th 記念事業の取り組みについてご紹介します。

### No. 7 町内会贈呈

エコミュージアム21の近隣町内会であります多賀城市桜木町南台に草刈り機2台を贈呈しました。



### No. 8 陶芸教室

従業員全員でなにか1つの事を成し遂げようというコンセプトのもと、陶芸によりそれを表現しようというプロジェクトが行われますので、後日あらためてご報告します。

### No. 9 仙台「四方よし」宣言

日本で古くから唱えられてきた「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」の三方よしに「働き手よし」を加えた四方よし企業として宣言を行いました。鈴木工業はお客様、協力業者、地域、従業員すべてがより良くなるよう、様々な取り組みを積極的に行いながら、精進してまいります。

この制度の詳細は「仙台四方よし宣言企業」で検索



営業部 Buzz のつらつら

どうも僕です。久々にかわら版の順番が回ってきて興奮しています。今回は鈴木工業ではマイノリティな宮城県外出身の僕が、最近思った宮城県の好きなお店について語りたいと思います。

それは「名産のユニークさ」です。全国を転々として思うのは、その土地ごとの歴史や地形を反映した地名が現在まで残っているのって素敵だなあと。静岡県浜松市では徳川家康公の逸話から付けられた「小豆餅」「銭取」という地名がありました。これは三方ヶ原の戦いの中で家康公が浜松城まで逃げ帰る際に、道すがらの茶屋で小豆餅を食べたとする伝説に由来するそう、敵軍が追ってきたため代金を支払わずに馬に乗って逃げたところを、茶屋の老婆が走って追いかけて代金を回収した土地が銭取と名付けられたそうです。現在はどうか分かりませんが、以前住んでいた頃にはバス停の名前としても残っており、バスに揺られるながら「ばばあどんだけ元気なんだよ。茶屋はいいから戦に加勢しろよ」と思ったものです。

そんな僕が衝撃を受けたのが宮城県の地名、とにかく読めない地名が多い！「愛子」「霊屋下」「閑上」「小牛田」「秋保」と初見ではまず読めない地名のオンパレードで当初困惑したのを今でも覚えていて。今もちよくちよく読めない地名があります。最近では大崎市の「古川北宮沢村木欠丙」という地名を見て、「呪文かな？陰陽師とか住んでるのかな？」と思ったりしました。今も読み方は分かりませんが、そんな中でも特に好きなのが歴史的な背景に由来する仙台市内の地名。城下町であったことを受けて「鍛冶町」や「鉄砲町」「保春院前丁」などここに住んでいたのである人や生業、由来が丸出しのユニークな地名が多くだらうライブや散歩をするだけでも歴史探訪している気になさずくれます。この記事を書くにあたってインターネットで色々調べていたら、仙台市内の町名の由来を解説しているページを見つけて、これもまた興奮しています。これらの地名はやはり伊達政宗公統治下の町割の影響が強い様です。スマートフォン片手に地名が名付けられたときに思いを馳せての近所散歩なんて良いかもしれませんね。

僕は途中の茶屋でお茶菓子食べて代金払わずに逃げるチャレンジやつてみようと思います。皆さんもふと町中で見かけた地名、気にならたら調べてみると素敵な歴史探訪が待っているかも知れません。それから寒くなるとお出かけするにも億劫になりませんが、そんな時の楽しみの一つとして地名探訪おすすめてです。

環境トピックスとはなほはかり。丸2年をかけて東京オリンピックの競技場についてご紹介し続けたこのコーナー。本日はまだまだ、特にパラリンピックについていっばい語りたいところなのですが、大会が終了して2カ月も経ってしまつた今、さすがに環境に関する話題を書かなくては、ということ。今回のオリンピック・パラリンピックの環境配慮についてご紹介していきます。

環境トピックス 東京オリンピック編。公式ウエアはアシックスが、全国で回収した約4tの古着からポリエステルを含むウエアを選別し、化学的に分解脱色、再重合させてポリエステル樹脂を作り、生地にしました。さらに選手村のビレッジプラザで使われた木材は全国各地の自治体から借り受けたもので、大会終了後解体して返却、地元の公共施設などとして使用し、レガシー（財産）として活用されるそうです。このように様々な人や企業が関わり、持てる技術を出し合って、持続可能性のレガシーを残そうと努力した結晶がちりばめられていたのです。

食品ロス問題。いい印象ばかりが残るオリンピック・パラリンピックではあります。問題があったのもまた事実。スタツプ用に用意されたお弁当や選手村のピュツトに並べられた食材が大量に廃棄され、削減のレガシーは前々回のロンドン五輪から目標に掲げられ、前回のリオ五輪の時は残った食材を貧困救済レストランで取りました。今回も対策は取ってまいりました。コロナ対策もあって一度出してしまうものや人の手に触れたものを誰かに、というのは難しかったのかもしませんが、できることは追及して、今後行われる国際的なスポーツイベントに活かしたいですね。心から応援できる大会にはしてもらいたいと思います。開催してくれたい関係者の方々、選手の皆さんには心から感謝しています。運営お疲れ様です！

燃焼しても温室効果ガスである二酸化炭素を発生しない水素。今大会ではさまざまな場所でも燃料として使用されました。最も印象深いのは、オリンピックのシンボル聖火。史上初、聖火台で水素燃料が使用されました。また、大会で運用された燃料電池自動車や燃料電池バスにも供給されました。この水素は、福島県浪江町にある「福島水素エネルギー研究フィールド」で製造された「福島産水素」。「こんなところにも復興五輪」という理念が垣間見えます。

FCV。水素エネルギー研究フィールド。環境トピックス。東京オリンピック編。公式ウエアはアシックスが、全国で回収した約4tの古着からポリエステルを含むウエアを選別し、化学的に分解脱色、再重合させてポリエステル樹脂を作り、生地にしました。さらに選手村のビレッジプラザで使われた木材は全国各地の自治体から借り受けたもので、大会終了後解体して返却、地元の公共施設などとして使用し、レガシー（財産）として活用されるそうです。このように様々な人や企業が関わり、持てる技術を出し合って、持続可能性のレガシーを残そうと努力した結晶がちりばめられていたのです。

食品ロス問題。いい印象ばかりが残るオリンピック・パラリンピックではあります。問題があったのもまた事実。スタツプ用に用意されたお弁当や選手村のピュツトに並べられた食材が大量に廃棄され、削減のレガシーは前々回のロンドン五輪から目標に掲げられ、前回のリオ五輪の時は残った食材を貧困救済レストランで取りました。今回も対策は取ってまいりました。コロナ対策もあって一度出してしまうものや人の手に触れたものを誰かに、というのは難しかったのかもしませんが、できることは追及して、今後行われる国際的なスポーツイベントに活かしたいですね。心から応援できる大会にはしてもらいたいと思います。開催してくれたい関係者の方々、選手の皆さんには心から感謝しています。運営お疲れ様です！

